

日本音楽表現学会

第4回(グリーン・アベニュー)大会要項

期 日：2006年6月17日(土)～18日(日)

会 場：岡山大学創立50周年記念館

共 催：岡山大学教育学部

<ごあいさつ>

晴れの国・岡山へようこそ

日本音楽表現学会
第4回（グリーン・アベニュー）大会
実行委員長 井戸和秀

日本音楽表現学会も早4年目を迎えることとなりました。開催地として晴れの国・岡山が選ばれたことを、何よりもうれしく思っております。

岡山は雨が少なく温暖な気候に恵まれた地です。旭川、高梁川、吉井川という大きな河川があり、野菜や果物が豊かに育つ土地柄です。特に、桃やぶどう、マスカットなどの果物は、岡山の果物として全国にその名を馳せています。また、瀬戸内海に面しているため海の幸も豊かです。さらに、自動車関連、製鉄等の水島工業地帯も抱えています。一方、日本三大庭園として著名な後楽園や倉敷駅に隣接するチボリ公園は市民の憩いの場となっています。日本音楽表現学会にご参加の皆様におかれましては、このような岡山を是非、堪能していただきたいと思えます。

ところで、基調講演には、「これからの演奏家の理想の姿」について、世界的なヴァイオリニストの五嶋みどり氏を迎え、お話をさせていただくこととなりました。最近の世情をみますと、音楽の役割が日毎に変化しているように思われます。一昔前のように、どこからでもピアノの音が聞こえるというようなことはなくなってきました。そのような時に、五嶋みどり氏のお話は、ご参加の皆様に貴重な示唆を与えてくださることでしょう。また、シンポジウムにおいては、「音楽家の活動—コミュニティ・エンゲージメント—」をテーマに、音楽家の活動が、社会においてどのような役割が果たせるのかについて、活発な議論が交わされることと思えます。さらに、ワークショップや分科会、多彩な研究発表があります。内容も、西洋音楽から邦楽まで、見逃せない聞き逃せない内容が盛りだくさんです。参加された皆様方には、きっとご満足いただけることでしょう。

会場は、3年前に教職員や卒業生からの寄付によって建設された岡山大学創立50周年記念館です。この建物は、教育と学術の交流を目的としており、日本音楽表現学会の開催場所としては、誠に相応しいものと思えます。

6月の岡山大学の並木道は、グリーン・アベニュー大会の名の通り緑がいっぱいです。ご参加の皆様には一時の安らぎを感じていただけるでしょう。2日間にわたる学会が、実りあるものになることを祈ってやみません。そして、日本音楽表現学会がますます発展し、音楽教育のみならず、社会に有益な示唆を与えることができるように願っております。

日本音楽表現学会第4回（グリーン・アベニュー）大会プログラム

6月17日（土） 12:30	開場・受付	1F ホワイエ
13:00	開 会	Room A
	オープニング演奏	「竹生島」(箏) 佐野 満穂 (三弦) 楠 紀江 (尺八) 鈴木 昇敏
	ごあいさつ	会 長 中村 隆夫 教育学部長 高橋 香代 実行委員長 井戸 和秀
13:15-14:00	基調講演	五嶋みどり氏

これからの演奏家の理想の姿

14:00-15:30 シンポジウム

音楽家の活動——コミュニティ・エンゲージメント——

15:45-16:45 総 会（当日資料配付）

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 報告
 - (1) 2005年度事業報告
 - (2) 第3回（アクアブルー）大会決算報告
 - (3) 2005年度会計報告・監査報告
 - (3) 2006-7年度会長・理事選挙報告
 - (4) その他
4. 協議
 - (1) 2006-7年度役員体制について
 - (2) 2006年度事業計画（案）について
 - (3) 第4回（グリーン・アベニュー）大会予算について
 - (4) 2006年度予算（案）について
 - (5) 編集委員会規定改正案について
 - (6) 第5回大会開催候補地について
 - (7) その他
5. 閉会の辞

17:00-18:30 分科会Ⅰ（ワークショップ） Room A, Room B, Room C

19:00-21:00 懇親会 ピーチユニオン4Fレストラン

6月18日（日） 9:00 受 付

9:15-10:45 分科会Ⅱ Room A, Room B, Room C

11:00-12:30 分科会Ⅲ Room A, Room B, Room C

13:30-15:00 分科会Ⅳ Room A, Room B, Room C

15:15-16:45 分科会Ⅴ Room A, Room B, Room C

16:45-17:00 閉 会 Room A, Room B, Room C

オープニング演奏：「竹生島」

—琵琶湖にある竹生島の弁財天と竜神，漁師をうたった謡曲を基に千代田検校が作曲した祝い事の曲—
(箏) 佐野 満穂：京極優一に師事。山田流箏曲を学ぶ。現在，くらしき作陽大学非常勤講師。会員
(三弦) 楠 紀江：小島歌恵美，京極優一に師事。生田流，山田流箏曲を学ぶ。会員
(尺八) 鈴木 昇敏：横山蘭敏，横山勝也に師事。琴古流，普化宗，吾妻流尺八を学ぶ。会員

分科会のプログラム

分科会Ⅰ (ワークショップ) 6月17日 (土) 17:00-18:30

司 会

- Room A 山田 貢：バッハの無伴奏曲の編曲について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 松下 允彦
 Room B 鈴木 昇敏：尺八って何なの？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 荒川 恵子
 Room C 鶴澤 友球：義太夫節を語ってみよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 安藤 政輝
 ー表現してこそ面白い“語り物”への誘いー

分科会Ⅱ 6月18日 (日) 9:15-10:45

- Room A・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 亀井 良幸
 1) 田島 孝一：“指歩キ”ノススメーFinger-walking Methodの基本理念ー
 2) 北山 敦康・濱永 晋二：管楽器の弱音効果と演奏者への心理的影響について
 ーサクソフォン用消音器の開発を通してー
 Room B・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 伊野 義博
 1) 桂 博章：秋田県羽後町西馬音内の盆踊りの動作パターンの抽出
 2) 佐川 馨：「郷土の民謡」の音楽的価値と教材としての有効性
 ー秋田民謡を取り入れた授業の分析を通してー
 Room C・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 吉永 誠吾
 1) 土門 裕之・山田 克己：ミュージカル活動における指導体制改革とその効果 (2006)
 ー拓殖大学北海道短期大学の事例からー
 2) 岡 健吾：保育士養成校における教育活動としてのミュージカルに関する一考察
 ーキャスト以外の学生の取り組みに着目してー

分科会Ⅲ 6月18日 (日) 11:00-12:30

- Room A・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 安田 香
 1) 長瀬 正典：楽器が生まれる背景と作品の時代様式
 ーバロック音楽と現代音楽の狭間でー
 2) 堀田 光：ピアノ演奏における鍵盤楽器のキーに関する一考察
 ー現在のキーに至る歴史の変遷ー
 Room B・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 松岡 貴史
 1) 佐野 仁美：昭和戦前期の演奏界における近代フランス音楽の受容
 ーフランス派ピアニストを中心にー
 2) 阿部亮太郎：西洋音楽と他の音楽を同列に考えようとする際の注意点について
 Room C・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 松本 進
 1) 川端 美穂：ミュージカル活動の人間力育成効果 (2) ー学生への質問紙調査の分析からー
 2) 伊達 優子：保育者養成校における主体的音楽表現を志向する授業構想に関する一考察
 ーピアノ実技指導を通してー

分科会Ⅳ 6月18日(日) 13:30-15:00

Room A 応和 恵子

- 1) 原 佳大：K.511とレオポルドの死との関連性
ーピアニストの立場からK.310と比較してー
- 2) 後藤 丹：《フィガロの結婚》のカリカチュアとしての《ドン・ジョヴァンニ》
ーオペラのスコアに織り込まれたモーツァルトの機知ー

Room B パネル・ディスカッション

- 1&2) 演奏家に置ける異文化受容
- 司会：高久 暁
パネリスト：安藤 政輝
岡本 茂朗
山名 敏之

Room C 加藤富美子

- 1) 河本 洋一：日本語歌唱における発声と発音の統合的教授法の検証的研究
ー幼児教育者養成の現場に見る課題の整理ー
- 2) 新山王政和：グループダイナミクスを活かした
「イメージングを通して音楽表現を創り上げる活動」の紹介
ー問題解決の段取り力を育む実践例ー

分科会Ⅴ 6月18日(日) 15:15-16:45

Room A 谷口 雄資

- 1) 村上 理恵：1920年代前衛映画を「動く図形楽譜」として用いた作曲法
ーハンス・リヒター《リズム21》の解析をもとにー
- 2) 小畑 郁男・豊田典子・深井尚子：歌曲における表現の研究

Room B 権藤 敦子

- 1) 鈴木慎一郎：黒沢隆朝が目指した音楽表現
- 2) 阿方 俊：電子オルガンを用いたスコアリーディング奏法の一考察
ー電子オルガン主科学生のアンサンブルを通してー

Room C 菅 道子

- 1) 今 由佳里：「水」を素材とした表現学習
- 2) 加藤 晴子：音楽と気候を連携させた歌唱表現学習ー小学校における実践をもとにー

Siberius デモンストレーション 6月18日(日) 午後 於：1F ホワイエ

基調講演： 五嶋 みどり 氏

「これからの演奏家の理想の姿」

<趣 旨> 音楽の社会に対する役割は時代とともに変わってきています。音楽家も然り。音楽を演奏しているだけでは十分といえない時代になってきました。日米両国でのアウトリーチ活動の経験をもとに、これからの音楽家の“理想の姿”を皆さんと一緒に考えたいと思います。

<プロフィール> 大阪府出身。1982年ニューヨーク・フィルとの共演でデビュー。1990年にカーネギー・ホールでもリサイタル・デビューを飾るなど、10代にして既に名だたるヴァイオリン奏者の一人としての地位を固めた。その演奏活動は、リサイタルとオーケストラ共演を半々に、ヨーロッパ、北米、日本、アジアの各地で年間70回程行われ、ベルリン・フィル、パリ管弦楽団、ニューヨーク・フィル、フィラデルフィア管弦楽団、ロンドン交響楽団など世界のほとんどのメジャーオーケストラと共演している。CDはソニークラシカルからリリースされており、最近のものとしてはロバート・マクドナルドとの「フレンチ・ソナタ集」、マリス・ヤンソンス指揮ベルリン・フィルとの「メンデルスゾーン&ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲」などがある。

1992年 THE MIDORI FOUNDATION（非営利団体みどり教育財団）を米国で設立し、後に、米国ではMidori&Friends、日本ではNPOミュージック・シェアリングとして子どもたちを対象とした非営利活動を行っている。他に米国では、小地域の一般を対象に無料コンサートを実施するPIP（非営利団体、パートナーズ・イン・パフォーマンス）を2001年に設立。

2003年より、大学に所属する職員・学生を対象に、音楽を軸として継続的に社会と密接な関係を築くことを目的としたURP（ユニバーシティ・レジデンシー・プログラム）の活動を、また、地元の青少年オーケストラとプロのオーケストラとともに、コミュニティ内の芸術意識を高めることを目的とするORP（オーケストラ・レジデンシー・プログラム）の活動を昨シーズンより開始するなどアウトリーチ活動に積極的に取り組んでいる。

楽器は林原共済会より終身貸与されているガエルネリ・デル・ジェス『エクス・フーベルマン』（1734年作）を使用。ニューヨーク大学において心理学とジェンダー研究の学士号・修士号を取得。また、南カリフォルニア大学ソートン音楽学校で教鞭をとっている。

公式ホームページ：www.gotomidori.com